



吉川市立東中学校 学校だより

あじさい

<https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh>

令和8年2月号

全校生徒数 290名

〒342-0017

住所：吉川市上笹塚 3-104-1

TEL：048-982-0244



「知識量」だけでなく「本質を考える力」も ～大学入試問題から学ぶ～

吉川市立東中学校長 伊東 猛

3 学期は「次の学年への0学期」とも呼ばれています。それぞれの学年で、学習面・生活面での総括を始め、次のステップにつなげる準備を始めています。また、3年生は私立入試の中心日を終え、公立入試に向けて少しずつ緊張感も増してきています。

そんな中ですが、大学入試も先日共通テストが実施され、いよいよ全国的に受験本番といった雰囲気となっています。国立の有名な大学としては「東京大学」があげられますが、少し前の東大のホームページを見ると、選抜について「知識を詰め込むことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します」と書かれていました。知識量ではなく、「関連付け」を求めるのが東大の問題のようです。それは正に、今の学校教育で身につけさせたい学力の一つです。実際に出題された東大の問題を紹介します。

右下の表の a～d は、下の①から④のいずれかにおけるバスや飛行機の時刻表を示したものです。a～d に該当する番号(①～④)を選んであてはめてください。

【解説】

現在の日本は、地方の過疎化が深刻な問題となっています。なので④の「山間部の村のバス停」は、a が正解になります。次にbは特徴が2つあります。1つは朝と夜に便がないこと。これを見て、「成田空港は24時間稼働していない！」という知識と結びつけてこれが①だと考えられるし、そうでなくても「騒音が発生するからこれは飛行機なんじゃないか」と①と答えが見えてきます。そこを見なくても、もう1つの特徴の発車時刻が5の倍数だというところで答えがわかる人もいるでしょう。バスと違って、飛行機は「33分発」というようなことはありません。そこから①が答えだと気づいた人もいるでしょう。次に②と③。東京郊外の住宅団地のバス停と人口約10万人の地方都市の駅前のバス停ですが、ポイントは、「人口約10万人の都市」をイメージできるかどうかです。「10万人の都市ってかなり大きいのでは？」と考える人がいると思いますが、そこまでではありません。近隣の市の人口を見ていくと、さいたま市の人口は約132万人、隣の越谷市は約 34 万人です。吉川市は約7万人なので、吉川市よりも少し大きい市だということが見えてきます。一方、「東京郊外の住宅団地」というのは、それよりも利用者が多く、郊外から東京の職場や学校へと通勤通学を行う…という人が非常に多い。そういう場合、7時～8時の電車やバスに乗るわけなので、この時間帯のバスが多い d が②となる。通勤通学の時間に「なぜ満員になるくらい利用者が多いんだろうか？」と考えていると、郊外の地域から都心へと移動する人が多いことが思いつくでしょう。

いかがでしたか？物事を覚えたり理解したりするためには、日常生活の中で経験してきた事柄と関連付けしながら「なぜだろう？」と本質を考えてみるのが大切であり、その能力こそ、これからの社会で活躍する中学生たちに求められている学力の一つなのです。このように勉強していけばいくほど、日常生活の疑問が解消され、世の中のことがよくわかるようになります。学校では、各教科において思考力が向上する課題を与えたり、「総合的な学習の時間」において、教科の知識を関連付けて考えたり、友だち同士で考え合ったりしながら、豊かな学びを創造してまいります。